

實際的教授と地文學と人文學の研究附録 學習資料

第一 世界大戰重要日誌

日本 大正三年八月十五日、獨逸に最後通牒。八月二十三日宣戰、青島砲撃開始。十一月七日青島占領。
大正七年八月二日、對露出兵宣言。

英國 大正三年八月四日、獨逸に宣戰。八月十二日、埃國に宣戰。十一月五日、土耳其に宣戰。大正四年十月十四日、ブルガリアに宣戰。大正三年十二月十七日、埃及英國の保護領となる。

佛國 大正三年八月十日、埃國に宣戰。大正四年十月十六日、ブルガリアに宣戰。大正三年九月三日、佛國政府ポルドーに移る。

米國 大正六年四月六日、獨逸に宣戰。十二月十四日、埃國と戰爭状態にある旨宣言。六月二十七日、第一回輸送軍隊上陸。

伊國 大正四年五月二十三日、埃國に對し宣戰。八月二十日、土耳其に宣戰。十月十八日、ブルガリアに宣戰。大正五年八月二十七日、獨逸に宣戰。

露國 大正三年八月二日、獨逸に宣戰。八月六日、埃國に宣戰。大正四年十月四日、勃牙利に最後通牒。大正五年十二月二十八日、怪僧ラスプーチン暗殺さる。大正六年三月十四日、露帝ニコラス二世退位。

六月二十三日、過激派議會解散を布告し、九月十六日共和國を宣言す。十一月七日、レニン權力を握る。十二月十八日、露獨全線休戦なる。大正七年三月三日、對獨講和條約調印。

白耳義 大正三年八月四日、獨逸に宣戰。八月二十六日、埃國に宣戰。

塞耳維 大正三年七月二十八日、獨、埃に對し宣戰。大正四年十月九日、獨埃軍のためにベルグラード占領さる。大正七年十二月二十九日、ユーゴスラヴ共和國政府成る。十一月四日、ベルグラード回復。

黑山國 大正三年八月七日、獨埃國に對し宣戰。大正七年十一月二十四日、ユーゴスラヴに合併決議。

葡萄牙 大正五年三月九日、獨逸に宣戰。三月十四日、埃國と國交斷絶。

支那 大正六年八月十四日、獨逸に宣戰。九月十一日、埃國に宣戰。

暹羅 大正六年七月二十二日、獨逸に宣戰。

巴奈馬 大正六年四月十日、獨逸に宣戰。十二月十三日、埃國に宣戰。

玖瑪 大正六年四月七日、獨逸に宣戰。

羅馬尼 大正五年八月二十七日、埃國に宣戰。八月二十八日、獨逸に宣戰。大正七年三月五日、羅獨講和條約調印。

ニカラガ 大正七年五月八日、獨逸に宣戰。五月九日、埃國に宣戰。

コスタリカ 大正七年五月二十三日、獨逸に宣戰。

ホンチユラス 大正七年七月十九日、獨逸に宣戰。

○右の外獨逸と國交斷絶の状態にあるものは、ボリビヤ、ブラジル、ガテマラ、リベリヤ、ハイチ、サ
ンドミンゴ、ウルグワイ、秘露、アルゼンチン、ギリシャあり。

獨逸 大正三年七月三十一日、露西亞に最後通牒。八月一日、露國に宣戰。八月二日、白耳義に最後通
牒。八月三日、佛蘭西に宣戰。大正五年三月十日、ポルトガルに宣戰。八月二十八日、ルーマニアに
宣戰。大正七年十一月九日、獨帝退位。

奧國 大正三年六月二十八日、皇太子フランシス・フェルデナンド大公及び同妃ホーヘンベルグ公主、
ボスニヤの首府サラエヴォに於て暗殺せらる。七月二十三日、セルビヤに最後通牒、二十八日宣戰。
大正六年四月九日、アメリカと國交斷絶。

土耳其 大正五年八月三十日、ルーマニアに宣戰。

勳牙利 大正五年十月一日、ルーマニアに宣戰。大正六年四月九日、アメリカに宣戰。

○大正七年十一月四日、對奧休戰條約成立。十一月十一日、對獨逸休戰條約成立、獨帝和蘭に通る。大正
七年十一月十四日、洪牙利獨立宣言。チエツク・スロヴァツク國ブラグに立國宣言。大正八年一月
二日、波蘭バドレウスキーを大統領として共和國建設を宣言す。一月十八日、佛國外務省に於て第一
回講和會議を開く。二月十四日、講和豫備會議開會、聯盟案可決。四月三十日、山東問題に關する日
本委員の主張貫徹。五月七日、條約草案を獨逸委員に手交。六月二十八日、對獨講和條約調印。九月
十日對奧講和條約調印。十一月二十七日、對勃講和條約調印。

第二 大戰に伴ふ列國の領土

日本 大洋洲中に於ける獨逸の舊領土たる、マリアナ群島、マーシャル群島、カロリン群島（バラウ諸
島も含む）は、我國の委任統治となつた。我が國に屬するものは赤道以北の太平洋中に散布せる五百六
十餘（ナウル島は赤道以南にある故、英吉利に屬す）の小島嶼であつて、全部熱帶圏に入り、其の區域
は東西二千五百餘哩、南北約一千百餘哩の間に散在してゐる。その面積は約百六十五方里、人口は約五
萬二千位である。群島中最大のもののはバラウ島で二十六方里、次はボナベ島の二十三方里である。我が
國は大正七年六月以來トラツク島に民政部を置いて之を治めてゐる。

氣候暑熱なるも海風常に暑氣を和げ、又降雨多く涼味を覺え、四季の變化少なく、人民の住居には不
適ではない。

産業はココ椰子の栽培盛で、之からコブラ、ヤシ油を製する。その産出額は年約七千噸で、約百萬圓
である。次は燐礦で西カロリン群島のアンガウル島は多量に産し、その埋藏量三百萬噸を算し、年産額
九萬噸に達してゐる。其他ビリリツ島の百五十萬噸、ファイス島の百五十萬噸等である。漁業も亦有望
で、鯨、鰹、鰯、鱈等が多い。その地理的位置より見たる價値は次の諸項である。

交通上、軍事上——寄航地、海底電線の中斷所、貯炭給水所、軍艦の根據地。

産業上——熱帶的産物の生産地、燐礦の供給地、漁業の根據地。

この外我が國は獨逸が巽に支那より租借せる膠州灣を譲り受け、我が國は之を直接支那に還附すべき

ことを聲明して置たが、大正十年十一月開設の華盛頓會議に於て山東問題として交渉が纏まり、支那に還附することゝなつた。その面積約三十六方里、人口約二十萬、多く石炭、鐵の採掘、酒類、穀粉等の製造に従事してゐる。

支那　ベルサイユ條約の結果、獨逸と協約せる總ての事項及び公有財産、外交官の住宅土地以外の營造物は悉く獨逸をして抛棄せしむることゝなつた。併し六月二十八日の調印日にその委員が缺席したゆゑに、今日では未だその儘になつてゐる。

暹羅　獨逸との間に締結した一切の條約及び之に基く一切の權利、權限特權は治外法權に關する一切の權利と共に消滅したのである。

露國　面積百四十八萬方里、人口一億八千二百萬なる露西亞帝國は、今度の大戰亂のために四分五裂の有様となつた。その現今に於ける國內の情況は大様左の通りである。

○大露西亞　大露西亞人約七千萬人を以て組織し、レーニン、トロツキの過激派政府がモスコに置かれてゐる。その宣言する所は資本家打破、階級打破、共產主義等である。

○芬蘭　一千八百九年瑞典の治下を離れて露國に併合せられたのであるが、その壓制に苦しんで獨立の好機を窺つてゐた。所が今度露國內に革命の起るや、好機逸すべからずとなしてその獨立を宣言し、一千九百十七年十二月六日には露國より分離獨立せる旨を發表し、一千九百十八年四月には元老院政府を立たした。その人種はウラルアルタイ族であるが、今日では北獨逸系統の分子が多い。その面積は約二萬一千五百方里、人口三百三十萬人、首府はフェルシングフォールス(人口約二十萬)である。水産業、林業に見るべきものがあつて、殊にバルブを製出し従て製紙業は盛である。

○波蘭　この國は露領ポーランドを中堅とし、境國領ガリシヤと獨逸領のポーゼン、西普魯西及びシレシヤの一部と東普魯西の北部に位する狹長のメーメル地方等である。即ち一千七百七十二年以來、露、普、奧三國に依つて分割せられたる波蘭舊領の殆ど全部である。始め露國の保護の下に獨立せんとしたが、不幸獨逸のために露國は散々に破られたから、次は獨逸の保護によつて立たんとした。然るに獨逸は傍若無人の横暴を極め、一千九百十八年四月以來その極に達したが、同年十一月休戰の議なるや波蘭人はこゝに獨立の大運動を起し、露獨及び小露、チェツク等の軍と各所に戰つたが、大正八年の一月十九日を以て聯合内閣を組織するに至つた。面積約二萬四千方里、人口は約三千六百萬人で、ワルサウ(人口九十萬)は首府である。此の國は土地平坦で農産物は豊かである。就中麻、麥類、甜菜、馬鈴薯の産多く、麻織物を多く産する。

○ウクライナ(小露西亞)　ドニエプル河中流の河谷に跨り、地味の極めて肥沃なるを以て世に知らるゝ所謂「黒壤地帯」なるものを占め、古來露國の穀倉と稱せられてゐる。此のウクライナ人一名小露西亞人は露國の國境から越えて境國領のブコヴィナ、南ガリシヤにも住んでゐて、その全民族の總數は約三千五百萬人の多きに達する。今から二百五十年程前までは露國と一緒になつて、一種の同盟に形作られて居たが、その後次第にその獨立の實を失ひ、百五十年前ピーター大帝の時に併合せられたのである。今度露國に革命が起ると、中央議會なるものを首府のキエフに組織し、一千九百十七年六月二十四日を以て自治を宣言し、更に十二月中旬過激派政府の立つや、今日ウクライナと稱する地域以外に小露西亞人の散在する全地方をも含む、面積約三萬五千方里の廣大なる地方を以てウクライナ共和國と稱し、越え

て一千九百十八年一月上旬に至り、全然露國から獨立せる旨を宣言し、過激派政府に對抗して使節を
ブレストに派遣して、獨逸及びその與國と二月十日を以て單獨講和を結んだのである。今日では面積約
八萬三千方里、人口四千六百萬產物は麥類等の農産物を主とし、又石炭、鐵、岩鹽等の産もある。

○リトワニヤ 大正八年二月獨立を宣言す。政權は議會に在り。この國は五百餘年前は全盛であつて、
國土は五萬方里もあつたが、今度は約六千方里、人口は五百萬の共和國となつてゐる。

○バルト諸州 エストニア(面積四千四百方里、人口約百八十萬人)、ラトヴィヤ(面積四千四百方里、人口二百五十萬人)、等バルチック沿岸地方であつ
て、大正七年三月獨立を宣言し、各共和制を立て、行政を司つてゐる。

○白露共和國 ミンスクを中心とし、モギレフ、グロドノ、ジイルナ等ドニエブル河の上流地方を領土
とせる白露西亞人の地で、大正七年五月獨立を宣言す、面積一萬五千五百方里、人口約五百萬ある。

○其他 東南部の方に左に示す自稱獨立國はあるが、其の前途は未だ何とも云へない。

タタール ゴオルガ河中部地方、一九一八年三月獨立宣言。

ドン共和國 ドン河流域地方、一九一七年十二月獨立宣言。一九一八年四月過激派に破らる。

コーサカス 黒海と裏海との間の地方、一九一八年一月獨立宣言。土耳其軍に破らる。

チオルチア 高加索の東南部チフリス地方、一九一八年五月獨立宣言。一九二〇年二月六日、獨立
を承認さる。

ダヴリツト 南露ダヴリツト及びクリミヤ半島の地方、一九一八年三月獨立宣言(面積一千六千方里、
人口六十萬人)。

ベツサラビヤ ルーマニアに合併さる。

○西比利亞 西比利亞には浦鹽臨時政府、ウエルフネウジンスク政府、ザバイカル政府、ハバロフスク
政府等の政府があつたが、現今ではチタ政府之を統一し、勞農露國後援の下に、極東共和國を建てよ
ゐる。

英國 その領土の變動についてみるに。

アフガニスタン—保護 ベルシヤ—保護 埃及—保護 アラビヤ半島、メソポタミヤ、パレス

タイン—委任統治 獨領東アフリカ、西南アフリカ—南阿へ委任統治 バブア島の一部、ビスマ

ルク群島—濠洲へ委任統治 サモア島—新西蘭へ委任統治 ナウル島—英國へ委任統治。

佛國、一千八百七十一年獨逸に割讓したる、アルサス、ローレン二州を恢復す。同地方は面積九百三十
五方里、人口百九十萬を有し、その埋藏せらるる鐵鑛量は二十六億噸に達する。加之軍事上より見れば
非常に價値のある所である。それからライン河の左岸は勿論、右岸は三十二哩の區域を軍事施設撤廢地
として、獨逸の勢力を抑止し、ザール地方の石炭採掘權を握り、アフリカに於ける獨領カルメン、ト
ーランドを占領し、シリヤを委任統治し、モロッコの保護權を確立することとなつた。その他莫大の
價金を得んとし、その獲得先取權をも握てゐる。

白耳義 獨逸との國境にモレネーを得、且つラインランドの中立地帯を設けられて、國土産業恢復の保
證を得、アフリカに委任統治地を得、又多大の價金をも收め得ることになつてゐる。

伊太利 アドリア海岸の一部(ダルマチヤの一部)、及び埃國のトレンチノ、トリエスタ地方を得て面積
二萬方里、人口三千七百萬位になるだらう。尙埃國のチロールに於て權利を得てゐる。

獨逸は戰後の結果ベルサイユ平和條約によつて左記の領土を喪失したのである。

アルサス、ローレン二州—面積九三五方里、人口一、九〇萬人—佛國へ。

モレネー—白國へ、
 ボーゼン、上部シレジャ、西プロシヤの一部—面積四八三〇方里、人口八四四萬人—波蘭へ。
 トーゴーランド、カメルン—面積六七六〇〇方里、人口三四〇萬人—佛英へ。

獨逸西南阿弗利加—面積五四八〇〇方里、人口一〇萬人—南阿聯邦へ

同 東阿弗利加—同 六五三〇〇方里、同七五〇萬人—英國へ
 ナウル島—英國へ。

同 ニーギニアの一部—面積一五七〇〇方里、人口五五萬人—濠洲へ。
 ビスマルク群島—ニュージールランドへ。

同 カロリン群島、マーシャル群島、マリアナ群島、膠州灣—日本へ。

右の外オイベン、マルメーを白耳義に、シユレスウキツヒ、ホルスタインを丁抹に、ザール流域を佛國に將來に於て讓渡する可能性がある。其の他ラインランドを中立地帯とし、ダンチツヒを獨立市とし、東プロシヤ及び上部シレジャの一部は民族の投票によつて決せしむることとした。従つて現在の面積は約三萬二千方里、人口約五千八百萬人となつた。其の他多額の償金を申附けられ、軍備は制限せられ、各國內に有した種々の權利營造物は全部拋棄せなければならぬこととなつた。

奥地利 面積四萬一千方里、人口五千萬の奥匈帝國は分裂して、北にチエツク國、南にユーゴースラヴイヤ國興り、從來の匈牙利は分離獨立し、南西のトレンチノ、イストリヤ、ダルマチヤ等の地を伊太利に割き、今や一朝にして面積約五千方里、人口約七百萬人に過ぎざる葡萄牙程度の第三流國となつた。

匈牙利 戰前に於て面積二萬一千四千方里、人口二千一百萬を有してゐたが、前者と同一の運命に遭遇しトランシルバニヤ地方をルーマニヤに、南部のストラボニヤ、クロアチヤをユーゴーに、カルパチヤ山脈の西部をチエツク國に、バナード地方を人民投票によらしめることにしたから、その面積は六千方里、人口八百萬となつた。

羅馬尼 ルーマニア民族の住居するトランシルバニヤ(面積三七四〇方里、人口三〇〇萬人)を匈牙利より、ブコヴィナを奥國より、ベツサラビヤを露國より獲得し、ドブルヂヤの南部(面積約五〇〇方里、人口約三五萬人)を匈牙利に還附することになつてゐるから、戰後の此の國は面積約二萬六千方里、人口一千七百餘萬に達する國となる譯である。
 希臘 土耳其領たりしスミルナ、勃牙利のスレースは希臘の委任統治となり、勃牙利よりマケドニヤの一部、アルバニアより南部エビルスを併せ、其の他多島海の諸島を合することになつたから、その面積は約三萬方里、人口六百萬の大國となつたのである。

勃牙利 戰敗國の悲しさ、西部スツルマ以西をセルビヤに割き、スレースは西部を希臘に、東部はコンスタンチンブル國に渡し、ルーマニヤよりドブルヂヤの南部を恢復することになつてゐる。従つてその面積は約六千方里、人口約五百萬人となつた。

ユーゴースラフ 南スラフ族即ちセルビヤ、モンテネグロを始めとし、ボスニヤ、ヘルチエゴヰイナ二州と、匈牙利領内のクロアチヤ、ストラブオニヤ並に奥地利領内のダルマチヤ、イストリヤ、トリエスタ、カルニョラ、カリンシヤ、南スチリヤ等に住居する約一千四百萬のスラフ民族の住域を總稱し、その面積は約一萬七千方里、首府はベルグラッドである。スラフ民族は普通之をセルビヤ人、クロアイト人、

スロウヴェン人の三種に區別するが、その建設せんとする國家をば一に又セルヴ、クロアト、スロウヴェン國ともいふ。一九一八年十月下旬クロアチヤ先づ獨立運動を開始したが、その後幾多の商議を経て遂に十二月一日を以て獨立を宣言し、セルビヤ現王室カラゲオルヂウイツチ家の治下に合併することに決議し、十二月二十九日にその政府は成立したのである。

チエツクスロウアキヤ 舊奥匈國が瓦解するや、ボヘミヤ及びモラビヤのチエツク、スロバツク族は、一九一八年十一月十四日ブラーグに共和國の獨立を宣言した、その領域はボヘミヤ及びシレヂヤ、モラビヤと洪牙利の西北部との地方を合したもので、面積約一萬方里、人口約一千四百萬人である。その主體部或は中堅たるボヘミヤは奥匈國內で最も人口の稠密なる上に、地味が肥沃で小麦、馬鈴薯、甜菜等の物資が豊富であり、殊に鑛産物に富み製造工業の最も發達して居た地方であるから、奥匈國にとつては政治上軍事上重大なる致命的の打撃である。

チエツク人は有爲有望の國民であつて、而も勤勉である上に土地が肥沃で物資に富で居るから、將來立派な國家を經營するであらふ。スロバツク人に至ては更に總ての點に於て前者に優つて居るが、その住地はカルパチヤの山間地方で、ボヘミヤの如き天與の恩恵に浴することが出来ないから、その生活状態は極めて貧弱である。又彼等は人種上に於てはチエツク人と同一であり、言語も同じであるが、從來歴史を異にし政治上に於ては全く没交渉であつたから、言語以上に何等の共通點がないさうである。**丁抹** 一八六四年普魯西との戦ひ敗れて割讓した、シユレスウイツヒ州(人民投票)の内で、北部丁抹民族の居住する地方は同國に合併せられるであらう。さうすると面積は二千八百五十方里、人口は三百二十萬となるのである。

コンスタンチノール自由國 土耳其は全くバルカン半島から驅逐せらるゝ事となり、そのコンスタンチノール及びスレエス地方、ボスボロス、ダルダネルス兩海峡等はコンスタンチノール自由國の名の下に國際管理に附せらるゝこととなり、我國もその管理國の仲間入をしてゐるのである。その面積は約二千方里、人口二百萬位である。

土耳其 土耳其帝國は今や戰敗の結果全く四分五裂の状態である。即ち一九二〇年四月二十一日より開會のサンレモ會議は、土耳其問題について次の如く決議したやうである。

アルメニヤは獨立國となり、委任統治國なし。パレスタインは猶太人の故國となり、メンボタミヤと共に英國の委任統治となる。バツームは英軍によつて守備せらる。アダリアは伊太利の委任統治となる。スマルナ、スレエスは希臘の委任統治となる。エヂエン海のデデアガツチは勃牙利領となる。君斯丹丁堡及びカリポリは聯合國の支配を受く。(現在面積三萬方里、人口八百萬となる。)

○大戰動員總數

戰死兵數	聯合國	四千三百萬	敵國側	二千五百萬
戰 費	聯合國	四百四十萬	敵國側	二百七十萬
喪失船舶	聯合國	二千七百隻	敵國側	一千隻
		八千隻	交戦日數	千五百六十七日

附 錄 終

第二 大戰に伴ふ列國の領土

大正十三年十一月五日 改訂六版印刷
大正十三年十一月十日 改訂六版發行



料資習學と授教的際實
究研の學文人と學文地

校訂者 千葉命吉
著者 山田佐太郎
發行者 岡本三郎
印刷者 堀越幸

大坂市南區鹽町通二丁目二十六番地
大坂市西區阿波庶二番町壹番地

定價金參圓五拾錢
小包料金拾八錢

發行所 大坂市南區鹽町通二丁目
發賣所 振替大坂二九一番・電話船場二二八七番
發賣所 東京市日本橋區大傳馬町二丁目
發賣所 振替東京一〇六〇番・電話浪花二八八九番
發賣所 東京市神田區美土代町三丁目
發賣所 振替東京三三〇七番・電話神田二八五四番

岡本偉業館
淺見文林堂
富田文陽堂

安部清見著

(最新刊發賣)

師範生の頃から校長のころまで 彼から彼へ

内容概覽

師範生のころの教育觀のたてかえ
次席訓導のころの生活觀の確立
田園小學校長のころの人生の体験
師範首席訓導のころの思索表現
都市小學校長のころの自我成長教育への努力
低級な教師の自己發展への焦燥煩悶録
獨立獨歩よるべなき教師の闘生活録
自己開拓をモットーとせる彼よりの鐵槌録
大なる彼より小なる彼への挑戦録
自我實現にまでの教師の反省録
自己生活を凝視めた教師の体験歡喜録
眞實をねらつて進む教師の自己満足録

◆師範生のころ
成長への教育と成人教育。兒童を伸ばせ。彼は内長植物たれ新しき教師生活に入る彼に

◆次席訓導のころ
彼の境遇は彼自ら創り。体験せよ。かゝる模範生を養ひ。教師として。靈的生活。彼の結婚の目標。母は永遠の生命の創造者。純眞な子供を知れ。彼はかゝる思索の元に結婚。媒介に努めた

◆田園小學校長のころ
校長十年案。この頃の青年に。彼が死生の間に湧いた宗族。家庭教育の改造。親の爲か子の爲か。萌は出でよ女教師。

◆師範首席訓導のころ
彼に輝いた師範校長。所謂新しき婦人に。思師へ奉る書。愛兒不。子の臨終まで。血を吐き來輪。生活我觀。新しき道徳教育へ。修身教授の御台を仰いで。赤き心を旗にこめて

◆都市小學校長のころ
温實的な教育からの解放。人生の行き方に徹せよ。ふりかへつて。女教師は。ない。彼は哲學に。生きた。生活は徹底。教育の標幟

洋裝四六版
上製三七百七頁
定價金貳圓
郵稅二十錢

大坂市南區鹽町通二丁目二番地 岡本偉業館發行 電話船場二二八七番 振替東京三三〇七番 大坂二九一番 九二九番

兒童

文學博士小西重直先生校訂 大塚鑒著

定價金參圓
小包料拾八錢

自發的學習如何指導教師

實際的學習指導法の新研究

○動的的教育と云ひ自學自習と云ふも果して實地の教育は如何??? 空虚なる放任學習。これその反動的弊にあらざるか!!! ◎本書は普通の地方小學校に於て兒童を如何にして自發的學習に導くか又如何にその學習を指導するか又如何に個人的指導を爲すかの諸問題に對する實際的、具體的、決案なり一續直に實行し得べし。◎本書の内容は教育界第一人たる小西博士が最も適切有益なりとして親しく校訂せられたるものなり。

○小西序曰
理論的基礎を有し實際に適切なる研究として世に發表せられたるものである……と其有益なる研究の結果とに刺戟せられ是に喜悅の情を表はさんが爲めに一言せざるを得ない様な内心の要求を感ずるのである。

發行所

大阪市南區 振替大阪二九一九番
鹽町通二丁目 電話船場三二八七番
東京市日本橋區 大傳馬町二丁目

岡本偉業館書店

東京市神田區 美土代町三丁目

文陽堂

陸軍體操界の權威者氏原先生
指導の下に實際家皿井勝美先生
多年實地研鑽の賜物

前陸軍戸山學校教官
現陸軍士官學校教官

氏原靜英先生 閱 皿井勝美先生 著

菊判綿布金字入 定價金貳圓也
挿紙百五十餘個 送料小包が郵費

本編案の
五大特色

1. 一ヶ年を五教程に減じたること
2. 新教材を一目瞭然たらしめたること
3. 細案表中に新教材及特に注意を要すべき教材には各學年の程度に相應したる挿紙を加へ解説的注意を加へたること
4. 遊戯の解説に挿紙を加へ細案表中に示せること
5. 細案は直ちに教案とし、使用し得るやう編成したること

合理的體操教授細案 附理論

理論解剖生理
運動學理を
根底とし諸
家の學說を
参考して著
述せる簡單
明解にして
而も穩健な
る理論なり

第一編 體操科を受持つ人はどれ丈のことを考へて
第一章 體操科を受持つ人はどれ丈のことを考へて
第二章 體操科を受持つ人はどれ丈のことを考へて
第三章 體操科を受持つ人はどれ丈のことを考へて
第四章 體操科を受持つ人はどれ丈のことを考へて
第五章 體操科を受持つ人はどれ丈のことを考へて
第六章 體操科を受持つ人はどれ丈のことを考へて
第七章 體操科を受持つ人はどれ丈のことを考へて
第八章 體操科を受持つ人はどれ丈のことを考へて
第九章 體操科を受持つ人はどれ丈のことを考へて
第十章 體操科を受持つ人はどれ丈のことを考へて

第二編 毎週の配當時間數と教授時間との關係及毎
第三章 細案の特徴
第一編 尋常科第一學年より高等科第二學年まで
第二編 尋常科第一學年より高等科第二學年まで
第三編 尋常科第一學年より高等科第二學年まで
第四編 尋常科第一學年より高等科第二學年まで
第五編 尋常科第一學年より高等科第二學年まで
第六編 尋常科第一學年より高等科第二學年まで
第七編 尋常科第一學年より高等科第二學年まで
第八編 尋常科第一學年より高等科第二學年まで
第九編 尋常科第一學年より高等科第二學年まで
第十編 尋常科第一學年より高等科第二學年まで

發行所 岡本偉業館 大阪市南區 振替大阪二九一九番 電話船場三二八七番 東京市日本橋區 大傳馬町二丁目

○爲の家際實育教○

東京高等師範學校 蘆田惠之助先生序文

山崎兼次郎先生校訂
山田佐太郎先生著

細目教 綴方教授の實際
案代用

◎四六判洋綴全一冊◎紙數三百二十頁◎定價金壹圓貳拾錢(郵税金八錢)

△理論の上に立つた實際でなければ、その眞價を發揮せないと云ふことは誰も云ふことであるが種々雑多の理論、理論倒れになつた理論を根底とする實際は、亦その眞價を發揮せないことは勿論である。

△本書は現在小學校に於て理論倒れになつて宙に惑ふてゐる綴方教授の實際に資せんため、理論を離れて専ら著者の實際的經驗を編纂せられたものである。

△本書はその始めに綴方教授上最も必要なる教授要綱を論じ、次に各學年の教授細目資料と、文例三百六十餘篇を修めたるもので、雜務多端なる教育家の一ヶ年、毎週、毎時の綴方實際教授上最も利便を與へるものと考へる。

△本書は左の特色をもつてゐる。

- 一、實際教授上から歸結せる綴方教授要綱を掲げしこと。
- 二、他教科との連絡に留意せる各學年の細目資料を掲げしこと。
- 三、細目資料は文題の取捨撰擇を自由なる如くし、而もその代用とすることが出来る。
- 四、各學年に亘り多くの文例を掲げて實際教授の便を計りしこと。
- 五、各學年に必要なる文話の資料を掲げしこと。

發行所 大阪南區大目二丁目 岡本偉業館 電話 船場一丁目二番 電話 二九一七番

263.6
574

終

